

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	香川短期大学
設置者名	学校法人 尽誠学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
/	生活文化学科 食物栄養専攻	夜・通信	2		12	14	7	
	生活文化学科 生活介護福祉専攻	夜・通信			18	20	7	
	子ども学科第Ⅰ部	夜・通信			8	10	7	
	子ども学科第Ⅲ部	夜・通信			8	10	7	
	経営情報科	夜・通信			16	18	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="http://www.kjc.ac.jp/student/syllabus/">http://www.kjc.ac.jp/student/syllabus/</a> シラバス検索システムで「実務経験のある教員による授業科目」でキーワード検索すると結果が一覧で表示され、当該科目のシラバスを閲覧することもできる。
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	香川短期大学
設置者名	学校法人 尽誠学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kjc.ac.jp/about/group/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	(株)三幸商会 代表取締役	自：平成31年2月22日 至：令和3年5月27日	法人の管理運営全般。 自律的運営の促進。
非常勤	(株)経営政策研究所 代表取締役	自：平成31年4月1日 至：令和3年5月27日	法人の管理運営全般。 自律的運営の促進。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	香川短期大学
設置者名	学校法人 尽誠学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各学科・専攻課程の教育上の目的を達成するため、カリキュラム・ポリシーの下、短期大学設置基準等関係法令に合致する教育課程を体系的に編成している。</p> <p>学科・専攻課程ごとの教育課程は、各授業科目を必修科目、選択必修科目及び自由選択科目に分け、これを各年次に配当して編成し、教育課程一覧及びカリキュラム・ツリーを学生便覧等で学生に示している。授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。</p> <p>授業の内容及び授業計画については、各科目担当の教員が作成し、シラバスに明記している。</p> <p>○授業計画の作成・公表に係る取組及びその流れの概要は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学科にて次年度教育課程の見直しを8月までに行う。</li> <li>2. カリキュラムの改正を行う場合は教務委員会で諮り、委員会で決定した改正案を8月末の教授会で審議し、決定する。</li> <li>3. 教授会承認後、各学科で次年度開講科目の開講時期及び担当者の検討を行い、科目担当者にシラバスの作成を依頼する。</li> <li>4. 科目担当者は、教務グループが作成する「香川短期大学 Web シラバス作成マニュアル」に沿って1月末までに学内ポータルサイトにてシラバスを作成し、仮登録の状態で各学科の教務委員に提出する。</li> <li>5. 教務委員は2月末までに誤字脱字、記入漏れ確認等の第一次チェックを行い、所属学科長に提出する。</li> <li>6. 学科長は、3月末までに科目の記載内容が関連法規や本学のカリキュラム・ポリシーに則しているかなど、第二次チェックを行う。</li> <li>7. 第二次チェック完了後、教務グループにて本登録を行い、4月1日に Web 上で公開する。</li> </ol>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://www.kjc.ac.jp/student/syllabus/">http://www.kjc.ac.jp/student/syllabus/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は、教育目標に則って、学修成果を獲得したかどうかを測ることにより行っている。具体的な取組は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全科目のシラバスに到達目標、授業内容、事前事後学習の時間及び内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等を明示</li> <li>・シラバスにて学生に示された「成績評価の方法・基準」に則り、客観的に学修成果を測り、評価</li> <li>・科目の内容・特性に応じ、定期試験、あるいは試験に代わる提出物、発表等で厳格に評価を実施</li> <li>・科目担当者は各学生の成績を0～100点で採点し、その得点によって以下のように成績評価を決定 <ul style="list-style-type: none"> <li>秀…90～100点、優…80～89点、良…70～79点、可…60～69点、不可…0～59点</li> </ul> </li> <li>・本学の定める「学生指導のガイドライン」に則った担任指導により、学修意欲を把握</li> </ul>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、客観的な指標の設定にファンクショナル GPA (以下「GPA」という。)を採用しており、以下の方法で算出している。</p> <p>&lt;算出方法&gt;</p> <p>GP 及び GPA は、次の式により算出するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を切捨てするものとする。</p> $GP = (100 \text{ 点満点の得点} - 55) \div 10$ <p>※GP &lt; 0.50 の場合は GP = 0.00 とする。</p> $GPA = (GP \times \text{当該科目の単位数}) \text{ の総和} \div \text{履修総単位数}$ <p>次の科目は、GPA の算出には含めない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「合格」及び「不合格」で成績を評価する科目</li> <li>(2) 他の大学等で修得した科目を、本学で既修得単位として認定した科目</li> <li>(3) 履修登録修正期限までに履修登録を取り消した科目</li> <li>(4) 卒業の要件に含まれない「その他の科目」として単位認定された科目</li> </ol>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.kjc.ac.jp/student/about-status">https://www.kjc.ac.jp/student/about-status</a>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○卒業の認定方針の策定・公表に係る取組及びその流れの概要は以下のとおりである。

1. 毎年、各学科にて卒業の認定方針の見直しを行う。
2. 卒業の認定方針の改正を行う場合は自己評価委員会で諮り、委員会で決定した改正案を直近の教授会で審議し、決定する。
3. 教授会承認後、次年度開始までに『学生便覧』、Web 等で公表を行う。  
(卒業の認定方針の内容は「(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要」参照)

○卒業の認定方針の適切な実施に係る取組及びその流れの概要は以下のとおりである。

1. 卒業年次の成績確定後、各学科にて卒業認定学科会を行う。
2. 卒業認定教授会にて学科原案を確認し、学生の卒業認定を行う。
3. 教授会承認後、卒業認定発表を行う。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	香川短期大学
設置者名	学校法人 尽誠学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/public/">https://www.kjc.ac.jp/about/public/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/public/">https://www.kjc.ac.jp/about/public/</a>
財産目録	<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/public/">https://www.kjc.ac.jp/about/public/</a>
事業報告書	<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/public/">https://www.kjc.ac.jp/about/public/</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/public/">https://www.kjc.ac.jp/about/public/</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/certificate/">https://www.kjc.ac.jp/about/certificate/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/certificate/">https://www.kjc.ac.jp/about/certificate/</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生活文化学科 食物栄養専攻課程
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/">https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/</a> )
<p>(概要)</p> <p>○生活文化学科</p> <p>① 日本文化の継承と創造を図ることができる、教養豊かな人材の養成</p> <p>② 専門的知識と技術を身につけ、即戦力となる人材の養成</p> <p>③ 社会性を身につけ、相手を理解し、自分の意見のもてる人材の養成</p> <p>・生活文化学科 食物栄養専攻課程</p> <p>① 健康に関する知識と実践力を身につけ、健康づくりに貢献できる栄養士の養成</p> <p>② 食に関する知識と技術を身につけ、バランスのとれた食事を提供できる栄養士の養成</p> <p>③ 限りある食糧資源を有効に利用し、次世代に継承できる人材の養成</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a> )
<p>(概要)</p> <p>・栄養管理コース</p> <p>・食品栄養コース</p> <p>(知識・理解)</p> <p>① 食と健康について理解し、栄養士として必要な専門的知識を身につけている</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>② 食環境の変化や最新の栄養情報に対応できる柔軟な思考力、的確な判断力を身につけている</p> <p>③ 他者と協調・協働するために必要なコミュニケーション能力を身につけている</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>④ 食事や栄養のアドバイザーとしての使命感を持ち、食と栄養の面から社会に貢献しようとする意欲と態度を身につけている</p> <p>(技能)</p> <p>⑤ 栄養士として必要な専門的技術を身につけている</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a> )
<p>(概要)</p> <p>・栄養管理コース</p> <p>・食品栄養コース</p> <p>【教育内容・方法】</p> <p>1. 健康で文化的な社会生活をおくるための基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、グローバル社会で活用できる幅広い知識・技能及び社会の出来事に関心を持ち、よりよい社会を創造する意欲と態度を身につけるため、幅広い分野から構成される共通科目を配置します。</p> <p>2. 各授業科目について、シラバスに履修者の到達目標、授業の到達目標とディプロマ・ポリシーとの対応、授業計画 (授業内容及び事前事後学習と時間)、オフィスアワー、学習項目とその成績評価方法及び配点比率等を明記し、周知します。</p> <p>3. 授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるため、全教員がオフィスアワーを設け、学生の理解を助けます。</p> <p>4. 「専門教育科目」は、&lt;生活文化系&gt;、&lt;社会生活と健康&gt;、&lt;人体の構造と機能&gt;、&lt;食品と衛生&gt;、&lt;栄養と健康&gt;、&lt;栄養の指導&gt;、&lt;給食の運営&gt;など学科</p>

の専門性に応じて体系的に学ぶために講義や演習、実習をバランスよく配置し、体系的な教育課程の編成を行います。授業科目やその配当年次は、実習や演習を通して、各専門分野における専門知識・技能を磨き、実践力を高められるように設定します。また、〈その他〉として、2年間の学びの基礎となる初年次教育を行う科目、就職につながるキャリア支援科目、2年間の学びを振り返りながら、それぞれの分野でのまとめとしての特別研究を行う科目を設け、学びの集大成とします。さらに様々な資格取得や検定合格をめざすプログラムを積極的に設定し、一人一人の進路や関心に応じて学生の成長をサポートします。

5. 本学科の授業は「講義」、「演習」、「実験・実習」から構成されており、「演習」、「実験・実習」では、グループで協議しながら課題に取り組み、調査、分析を通して判断力や問題解決力を育成します。また、地域活動を通して他者と協調、協働するために必要なコミュニケーション能力を養います。
6. 第一線で活躍する調理分野及び栄養士現場の外部講師による実習や講義、食品加工施設見学等の体験型授業を通して、最新の栄養情報に対応できる柔軟な思考力を養い、栄養士としての使命感を育成し、実践的な知識及び技能の修得を図ります。栄養指導や献立作成・調理を通じて、栄養士として必要な専門的技術を身につけます。

#### 【学修成果の評価】

##### 1. 評価の目的

学修成果の達成を目指した教育内容・方法の充実改善を図り、本学の「教育の質」を保証するために、定期的に学修成果（教育課程及び成績）の評価を実施します。

##### 2. 教育課程の評価方法

学修成果（教育課程）の評価方法については、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づき、機関レベル（大学）・教育課程レベル（学科・専攻課程・コース）・科目レベル（授業）の3段階においてそれぞれの方法を定めています。

###### ①機関レベル

各種入学試験、入学前教育、退学率、休学率、学生生活に関する調査、卒業率、就職率、免許取得率、進学率、卒業生へのアンケート調査、卒業生の動向に関する調査 等

###### ②教育課程レベル

各種入学試験、入学前教育、カリキュラム・ルーブリック、カリキュラム・マップ、GPA、修得単位数、学生生活に関する調査、卒業率、就職率、免許取得率、進学率 等

また学修成果評価の指標として、「栄養士実力認定試験」の得点を参考にします。

###### ③科目レベル

単位取得状況、成績評価、授業改善アンケート、カリキュラム・ルーブリック 等

##### 3. 成績の評価方法

学修成果（成績）の評価方法については、成績評価基準に基づき、科目の特性や到達目標等を踏まえ、シラバスに明示した評価方法及び配点比率を用いて厳格な評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/>）

（概要）

#### ・栄養管理コース

（知識・理解）

- ① 栄養士免許を取得するために必要な専門的知識を修得することができる基礎学力を身につけていること

（思考・判断・表現）

<p>② 他者と協調・協働するために必要なコミュニケーション能力を修得しようとしていること (関心・意欲・態度)</p> <p>③ 地域の食育活動に関心を持ち、それらに関する情報を収集し、積極的に食育活動に関わろうとしていること</p> <p>④ 給食管理、栄養指導に関心を持ち、そのスキル修得の意欲が認められること (技能)</p> <p>⑤ 栄養士として必要な専門的技術を修得することができる基礎的技術を身につけていること</p> <p><b>・食品栄養コース</b> (知識・理解)</p> <p>① 栄養士免許を取得するために必要な専門的知識を修得することができる基礎学力を身につけていること (思考・判断・表現)</p> <p>② 他者と協調・協働するために必要なコミュニケーション能力を修得しようとしていること (関心・意欲・態度)</p> <p>③ 地域の食育活動に関心を持ち、それらに関する情報を収集し、積極的に食育活動に関わろうとしていること</p> <p>④ 食品の商品開発、フードビジネスに関心を持ち、そのスキル修得の意欲が認められること (技能)</p> <p>⑤ 栄養士として必要な専門的技術を修得することができる基礎的技術を身につけていること</p>
---

<p>学部等名 生活文化学科 生活介護福祉専攻課程</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/">https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/</a> )</p>
<p>(概要)</p> <p>○生活文化学科</p> <p>① 日本文化の継承と創造を図ることができる、教養豊かな人材の養成</p> <p>② 専門的知識と技術を身につけ、即戦力となる人材の養成</p> <p>③ 社会性を身につけ、相手を理解し、自分の意見のもてる人材の養成</p> <p>・生活文化学科 生活介護福祉専攻課程</p> <p>① 一人ひとりを大切にし、人間の尊厳を守れる人材の養成</p> <p>② 豊かな感性と福祉に関する高度な知識と技術を兼ね備えた人材の養成</p> <p>③ 誰もが自分らしく幸せに生きられるよう支援できる人材の養成</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a> )</p>
<p>(概要)</p> <p>(知識・理解)</p> <p>① 介護福祉の本質と目的について理解し、介護福祉士として必要な専門的知識を身につけている</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>② 介護を必要とする人の情報を収集し、専門的に必要な思考力、判断力、実践力を身につけている</p> <p>③ 実践的なコミュニケーション能力を身につけている</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>④ 介護福祉に関心を持ち、介護福祉士として常に向上しようとする意欲を身につけている</p>

<p>(技能)</p> <p>⑤ 介護福祉士として必要な専門的技術・技能を身につけている</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：  <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p><b>【教育内容・方法】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康で文化的な社会生活をおくるための基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、グローバル社会で活用できる幅広い知識・技能及び社会の出来事に関心を持ち、よりよい社会を創造する意欲と態度を身につけるため、幅広い分野から構成される共通科目を配置します。</li> <li>各授業科目について、シラバスに履修者の到達目標、授業の到達目標とディプロマ・ポリシーとの対応、授業計画（授業内容及び事前事後学習と時間）、オフィスアワー、学習項目とその成績評価方法及び配点比率等を明記し、周知します。</li> <li>授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるため、全教員がオフィスアワーを設け、学生の理解を助けます。</li> <li>介護福祉の本質と目的について理解し、介護福祉士として必要な専門的知識及び技術を身につけるため、介護福祉士国家資格取得に係わる「人間と社会」、「介護」、「こころとからだのしくみ」、「医療的ケア」の教育体系に基づき、理論と実践の融合ができるように学年・学期別に科目配置を行います。</li> <li>介護福祉に係る多様な事柄に対して関心、意欲を持ち、介護実習を通して、介護福祉士としての倫理性や資質を高め、その人らしい生活を支援するための能力を養います。</li> <li>介護福祉士として、介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる能力、他者と協調・協働するためのコミュニケーション能力、思考力及び判断力を養う教育を行います。</li> </ol> <p><b>【学修成果の評価】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>評価の目的       <p>学修成果の達成を目指した教育内容・方法の充実改善を図り、本学の「教育の質」を保証するために、定期的に学修成果（教育課程及び成績）の評価を実施します。</p> </li> <li>教育課程の評価方法       <p>学修成果（教育課程）の評価方法については、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づき、機関レベル（大学）・教育課程レベル（学科・専攻課程・コース）・科目レベル（授業）の3段階においてそれぞれの方法を定めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①機関レベル           <p>各種入学試験、入学前教育、退学率、休学率、学生生活に関する調査、卒業率、就職率、免許取得率、進学率、卒業生へのアンケート調査、卒業生の動向に関する調査 等</p> </li> <li>②教育課程レベル           <p>各種入学試験、入学前教育、カリキュラム・ルーブリック、カリキュラム・マップ、GPA、修得単位数、学生生活に関する調査、卒業率、就職率、免許取得率、進学率 等</p> </li> <li>③科目レベル           <p>単位取得状況、成績評価、授業改善アンケート、カリキュラム・ルーブリック 等</p> </li> </ol> </li> <li>成績の評価方法       <p>学修成果（成績）の評価方法については、成績評価基準に基づき、科目の特性や到達目標等を踏まえ、シラバスに明示した評価方法及び配点比率を用いて厳格な評価を行います。</p> </li> </ol>

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a>)</p> <p>(概要)</p> <p>(知識・理解)</p> <p>① 介護福祉士資格を取得するための学修に必要な基礎学力を身につけていること</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>② 目的を達成するために収集した情報を基に、自分の考えた計画を表明できること</p> <p>③ 実践的なコミュニケーション能力を修得しようとしていること</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>④ 介護福祉に関心を持ち、介護福祉士としての資質や能力を高めようとする意欲を持っていること</p> <p>(技能)</p> <p>⑤ 介護福祉士として必要な専門的技術を修得することができる基礎的技術を身につけていること</p>
---

<p>学部等名 子ども学科第Ⅰ部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法: <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/">https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>○子ども学科第Ⅰ部</p> <p>① 豊かな人格識見をもち、幅広い教養を身につけた人材の養成</p> <p>② 専門的知識と技術をもち、多様なニーズに柔軟に対応できる人材の養成</p> <p>③ 社会と関わり合い、社会に貢献できる人材の養成</p>

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法: <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>(知識・理解)</p> <p>① 保育の本質と目的について理解し、保育者として必要な専門的知識を身につけている</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>② 社会の変化やニーズに対応できる思考力、判断力、表現力及びコミュニケーション能力を身につけている</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>③ 保育に係る多様な事柄に対して関心、意欲を持ち、保育者としての資質や能力を高めようとする態度を身につけている</p> <p>④ 保育者としての倫理観と使命感を持ち、他者と協調・協働しようとする態度を身につけている</p> <p>(技能)</p> <p>⑤ 保育者として必要な専門的技術・技能を身につけている</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>【教育内容・方法】</p> <p>1. 健康で文化的な社会生活をおくるための基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、グローバル社会で活用できる幅広い知識・技能及び社会の出来事に関心を持ち、よりよい社会を創造する意欲と態度を身につけるため、幅広い分野から構成される共通科目を配置します。</p> <p>2. 各授業科目について、シラバスに履修者の到達目標、授業の到達目標とディプロマ・ポリシーとの対応、授業計画 (授業内容及び事前事後学習と時間)、オフィスアワー、学習項目とその成績評価方法及び配点比率等を明記し、周知します。</p>

3. 授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるため、全教員がオフィスアワーを設け、学生の理解を助けます。
4. 保育の本質と目的について理解し、保育者として必要な専門的知識及び技術・技能を身につけるため、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得に係わる授業科目をその体系に基づき、理論と実践のつながりを意識しながら学べるように学年・学期別に科目配置を行います。
5. 保育に係る多様な事柄に対して関心、意欲を持ち、保育者としての資質や能力を高めようとする態度を身につけるため、附属幼稚園や関連保育園等で子どもたちの成長を間近に見つめながら学べる科目を配置します。
6. 保育者としての倫理観及び使命感、主体的に社会の変化やニーズに対応できる思考力及び判断力、他者と協調・協働するための表現力及びコミュニケーション能力を身につけるために、地域に目を向けた保育体験やアクティブラーニング等の多様な教育方法を取り入れた指導を行います。

#### 【学修成果の評価】

##### 1. 評価の目的

学修成果の達成を目指した教育内容・方法の充実改善を図り、本学の「教育の質」を保証するために、定期的に学修成果（教育課程及び成績）の評価を実施します。

##### 2. 教育課程の評価方法

学修成果（教育課程）の評価方法については、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づき、機関レベル（大学）・教育課程レベル（学科・専攻課程・コース）・科目レベル（授業）の3段階においてそれぞれの方法を定めています。

###### ①機関レベル

各種入学試験、入学前教育、退学率、休学率、学生生活に関する調査、卒業率、就職率、免許取得率、進学率、卒業生へのアンケート調査、卒業生の動向に関する調査 等

###### ②教育課程レベル

各種入学試験、入学前教育、カリキュラム・ルーブリック、カリキュラム・マップ、GPA、修得単位数、学生生活に関する調査、卒業率、就職率、免許取得率、進学率 等

###### ③科目レベル

単位取得状況、成績評価、授業改善アンケート、カリキュラム・ルーブリック 等

##### 3. 成績の評価方法

学修成果（成績）の評価方法については、成績評価基準に基づき、科目の特性や到達目標等を踏まえ、シラバスに明示した評価方法及び配点比率を用いて厳格な評価を行います。

#### 入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/>）

##### （概要）

##### （知識・理解）

- ① 保育者になるための学修に必要な基礎学力を身につけていること

##### （思考・判断・表現）

- ② 自分で計画を立て、情報を収集し、それらに基づいて自分の考えを論理的に表明できること

##### （関心・意欲・態度）

- ③ 保育に係る多様な事柄に関心を持ち、保育者としての資質や能力を高めようとする学習意欲が認められること
- ④ 社会や地域と積極的に関わり、倫理観や使命感を持って他者と協調・協働しようとする態度が認められること

<p>(技能)</p> <p>⑤ 保育者としての専門的技術を修得するために必要な基礎的技術を身につけていること</p>
---

<p>学部等名 子ども学科第Ⅲ部</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/">https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/</a> )</p>
--

<p>(概要)</p> <p>○子ども学科第Ⅲ部</p> <p>① 豊かな人格識見をもち、幅広い教養を身につけた人材の養成</p> <p>② 専門的知識と技術をもち、多様なニーズに柔軟に対応できる人材の養成</p> <p>③ 社会と関わり合い、社会に貢献できる人材の養成</p>
---

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a> )</p>
--

<p>(概要)</p> <p>(知識・理解)</p> <p>① 保育の本質と目的について理解し、保育者として必要な専門的知識を身につけている</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>② 社会の変化やニーズに対応できる思考力、判断力、表現力及びコミュニケーション能力を身につけている</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>③ 保育に係る多様な事柄に対して関心、意欲を持ち、保育者としての資質や能力を高めようとする態度を身につけている</p> <p>④ 保育者としての倫理観と使命感を持ち、他者と協調・協働しようとする態度を身につけている</p> <p>(技能)</p> <p>⑤ 保育者として必要な専門的技術・技能を身につけている</p>
---

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a> )</p>
--

<p>(概要)</p> <p>【教育内容・方法】</p> <p>1. 健康で文化的な社会生活をおくるための基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、グローバル社会で活用できる幅広い知識・技能及び社会の出来事に関心を持ち、よりよい社会を創造する意欲と態度を身につけるため、幅広い分野から構成される共通科目を配置します。</p> <p>2. 各授業科目について、シラバスに履修者の到達目標、授業の到達目標とディプロマ・ポリシーとの対応、授業計画（授業内容及び事前事後学習と時間）、オフィスアワー、学習項目とその成績評価方法及び配点比率等を明記し、周知します。</p> <p>3. 授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるため、全教員がオフィスアワーを設け、学生の理解を助けます。</p> <p>4. 保育の本質と目的について理解し、保育者として必要な専門的知識及び技術・技能を身につけるため、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得に係わる授業科目をその体系に基づき、理論と実践のつながりを意識しながら学べるように学年・学期別に科目配置を行います。</p> <p>5. 保育に係る多様な事柄に対して関心、意欲を持ち、保育者としての資質や能力を高めようとする態度を身につけるため、附属幼稚園や関連保育園等で子どもたちの成長を間近に見つめながら学べる科目を配置します。</p> <p>6. 保育者としての倫理観及び使命感、主体的に社会の変化やニーズに対応できる思考</p>
---

力及び判断力、他者と協調・協働するための表現力及びコミュニケーション能力を身につけるために、地域に目を向けた保育体験やアクティブラーニング等の多様な教育方法を取り入れた指導を行います。

#### 【学修成果の評価】

##### 1. 評価の目的

学修成果の達成を目指した教育内容・方法の充実改善を図り、本学の「教育の質」を保証するために、定期的に学修成果（教育課程及び成績）の評価を実施します。

##### 2. 教育課程の評価方法

学修成果（教育課程）の評価方法については、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づき、機関レベル（大学）・教育課程レベル（学科・専攻課程・コース）・科目レベル（授業）の3段階においてそれぞれの方法を定めています。

###### ①機関レベル

各種入学試験、入学前教育、退学率、休学率、学生生活に関する調査、卒業率、就職率、免許取得率、進学率、卒業生へのアンケート調査、卒業生の動向に関する調査 等

###### ②教育課程レベル

各種入学試験、入学前教育、カリキュラム・ルーブリック、カリキュラム・マップ、GPA、修得単位数、学生生活に関する調査、卒業率、就職率、免許取得率、進学率 等

###### ③科目レベル

単位取得状況、成績評価、授業改善アンケート、カリキュラム・ルーブリック 等

##### 3. 成績の評価方法

学修成果（成績）の評価方法については、成績評価基準に基づき、科目の特性や到達目標等を踏まえ、シラバスに明示した評価方法及び配点比率を用いて厳格な評価を行います。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:<https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/>)

(概要)

(知識・理解)

- ① 保育者になるための学修に必要な基礎学力を身につけていること

(思考・判断・表現)

- ② 自分で計画を立て、情報を収集し、それらに基づいて自分の考えを論理的に表明できること

(関心・意欲・態度)

- ③ 保育に係る多様な事柄に関心を持ち、保育者としての資質や能力を高めようとする学習意欲が認められること

- ④ 社会や地域と積極的に関わり、倫理観や使命感を持って他者と協調・協働しようとする態度が認められること

(技能)

- ⑤ 保育者としての専門的技術を修得するために必要な基礎的技術を身につけていること

学部等名 経営情報科

教育研究上の目的(公表方法:<https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/>)

<p>(概要)</p> <p>○<b>経営情報科</b></p> <p>① 経営情報に関する基礎理論と実践の両輪をベースにした人材の養成</p> <p>② 情報ソリューションビジネスに対応できる人材の養成</p> <p>③ 社会人としての広い視野、教養及び豊かな創造力を兼ね備えた人材の養成</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>・<b>情報ビジネスコース</b></p> <p>・<b>デザイン・アートコース</b></p> <p>(知識・理解)</p> <p>① 情報ビジネスとデザイン・アートの分野における専門的知識を身につけている</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>② 柔軟な思考力を持って適切に判断でき、実践的なコミュニケーション能力を身につけている</p> <p>③ 健全な職業観を持ち、広い視野と深い教養及び豊かな創造力を身につけている</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>④ 学問的情熱を持ち、社会に対する高い関心と深い洞察力を身につけている</p> <p>(技能)</p> <p>⑤ 情報ビジネスとデザイン・アートの分野に求められているマネジメント能力及び問題解決能力を身につけている</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>・<b>情報ビジネスコース</b></p> <p>・<b>デザイン・アートコース</b></p> <p>【教育内容・方法】</p> <p>1. 健康で文化的な社会生活をおくるための基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、グローバル社会で活用できる幅広い知識・技能及び社会の出来事に関心を持ち、よりよい社会を創造する意欲と態度を身につけるため、幅広い分野から構成される共通科目を配置します。</p> <p>2. 各授業科目について、シラバスに履修者の到達目標、授業の到達目標とディプロマ・ポリシーとの対応、授業計画（授業内容及び事前事後学習と時間）、オフィスアワー、学習項目とその成績評価方法及び配点比率等を明記し、周知します。</p> <p>3. 授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるため、全教員がオフィスアワーを設け、学生の理解を助けます。</p> <p>4. 情報ビジネスとデザイン・アートの分野における専門的知識を身につけるため、学年・学期別に科目配置を行います。</p> <p>5. 柔軟な思考力を持って適切に判断でき、実践的なコミュニケーション能力を身につけ、健全な職業観を持ち、広い視野と深い教養及び豊かな創造力を身につけるため、科目を配置します。</p> <p>6. 学問的情熱を持ち、社会に対する高い関心と深い洞察力を身につけ、情報ビジネスとデザイン・アートの分野に求められているマネジメント能力及び問題解決能力を身につけるため、アクティブラーニング等の多様な教育方法を取り入れた指導を行います。</p> <p>【学修成果の評価】</p> <p>1. 評価の目的</p> <p>学修成果の達成を目指した教育内容・方法の充実改善を図り、本学の「教育の質」を保証するために、定期的に学修成果（教育課程及び成績）の評価を実施します。</p>

<p>2. 教育課程の評価方法</p> <p>学修成果（教育課程）の評価方法については、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づき、機関レベル（大学）・教育課程レベル（学科・専攻課程・コース）・科目レベル（授業）の3段階においてそれぞれの方法を定めています。</p> <p>①機関レベル 各種入学試験、入学前教育、退学率、休学率、学生生活に関する調査、卒業率、就職率、免許取得率、進学率、卒業生へのアンケート調査、卒業生の動向に関する調査 等</p> <p>②教育課程レベル 各種入学試験、入学前教育、カリキュラム・ルーブリック、カリキュラム・マップ、GPA、修得単位数、学生生活に関する調査、卒業率、就職率、免許取得率、進学率 等</p> <p>③科目レベル 単位取得状況、成績評価、授業改善アンケート、カリキュラム・ルーブリック 等</p> <p>3. 成績の評価方法</p> <p>学修成果（成績）の評価方法については、成績評価基準に基づき、科目の特性や到達目標等を踏まえ、シラバスに明示した評価方法及び配点比率を用いて厳格な評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法:<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/">https://www.kjc.ac.jp/about/philosophy/</a>)</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報ビジネスコース</li> <li>・デザイン・アートコース</li> </ul> <p>(知識・理解)</p> <p>① 情報ビジネスやデザイン・アートの分野を学修するために必要な基礎学力を身につけていること</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>② 自分で計画を立て、情報を収集し、それらに基づいて自分の考えを論理的に表現できること</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>③ 情報ビジネスやデザイン・アートに関する事柄に関心を持ち、社会人としての能力を高めようとする学修意欲を持っていること</p> <p>④ 社会や地域と積極的に関わり、倫理観や使命感を持って他者と協調・協働しようとする態度が認められること</p> <p>(技能)</p> <p>⑤ 情報ビジネスやデザイン・アートの分野における技能を修得するために必要な基礎的技術が認められること</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/structure/">https://www.kjc.ac.jp/about/structure/</a></p>
---

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
生活文化学科	—	11人	1人	2人	4人	1人	19人
子ども学科第Ⅰ部	—	2人	3人	3人	0人	0人	8人
子ども学科第Ⅲ部	—	3人	2人	1人	0人	0人	6人
経営情報科	—	5人	2人	3人	0人	0人	10人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			62人				62人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="https://www.kjc.ac.jp/about/teachers/">https://www.kjc.ac.jp/about/teachers/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教員が授業内容・方法を改善し向上させるために、本学にFD委員会を置き、組織的に取り組んでいる。具体的には、①本学主催の研修会（年4回）、②SPOD主催の研修、③SPOD以外の学外の研修、④新任教員の学内及び学外FD研修							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活文化学科	90人	70人	77%	180人	141人	78%	0人	0人
子ども学科第Ⅰ部	60人	55人	91%	120人	108人	90%	0人	0人
子ども学科第Ⅲ部	40人	37人	92%	120人	117人	97%	0人	0人
経営情報科	60人	67人	111%	120人	141人	117%	0人	0人
合計	250人	229人	91%	540人	507人	93%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生活文化学科	90人 (100%)	1人 ( 1.1%)	86人 ( 95.6%)	3人 ( 3.3%)
子ども学科第I部	56人 (100%)	2人 ( 3.6%)	54人 ( 96.4%)	0人 ( 0%)
子ども学科第III部	39人 (100%)	1人 ( 2.6%)	37人 ( 94.9%)	1人 ( 2.6%)
経営情報科	49人 (100%)	0人 ( 0%)	47人 ( 95.9%)	2人 ( 4.1%)
合計	234人 (100%)	4人 ( 1.7%)	224人 ( 95.7%)	6人 ( 2.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<主な就職先> 公務員 (丸亀市、三豊市、琴平町、まんのう町の幼稚園・保育園等)、ネットヨタ香川(株)、 (株)アクティオ四国支店、パナソニック(株)エコソリューションズ社、(株)コスモス薬品、 日本旅行サービス(株)、(株)高松三越、(株)スタジオアリス、アオイ電子工業(株) ほか 相愛幼稚園、あおやま保育園 ほか県内の私立幼稚園・保育園				
<主な進学先> 岡山学院大学、川崎医療福祉大学、四国学院大学 ほか				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
生活文化学科	97人 (100%)	90人 ( 92.8%)	0人 ( 0%)	7人 ( 7.2%)	0人 ( 0%)
子ども学科第I部	56人 (100%)	55人 ( 98.2%)	1人 ( 1.8%)	0人 ( 0%)	0人 ( 0%)
子ども学科第III部	46人 (100%)	39人 ( 84.8%)	0人 ( 0.0%)	6人 ( 13.0%)	1人 ( 2.2%)
経営情報科	49人 (100%)	49人 ( 100%)	0人 ( 0%)	0人 ( 0%)	0人 ( 0%)
合計	248人 (100%)	233人 ( 94.0%)	1人 ( 0.4%)	13人 ( 5.2%)	1人 ( 0.4%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>各学科・専攻課程の教育上の目的を達成するため、カリキュラム・ポリシーの下、短期大学設置基準等関係法令に合致する教育課程を体系的に編成している。</p> <p>学科・専攻課程ごとの教育課程は、各授業科目を必修科目、選択必修科目及び自由選択科目に分け、これを各年次に配当して編成し、学生便覧で教育課程一覧及びカリキュラム・ツリーを学生に示している。授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。</p> <p>授業の内容及び授業計画については、各科目担当の教員が作成し、シラバスに明記してWeb上で公開している。シラバスの作成過程は、様式第2号の3を参照のこと。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>成績評価は、教育目標に則って、学修成果を獲得したかどうかを測ることにより行っている。具体的な取組は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全科目のシラバスに到達目標、授業内容、事前事後学習の時間及び内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等を明示</li> <li>・シラバスにて学生に示された「成績評価の方法・基準」に則り、客観的に学修成果を測り、評価</li> <li>・科目の内容・特性に応じ、定期試験、あるいは試験に代わる提出物、発表等で厳格に評価を実施</li> <li>・科目担当者は各学生の成績を0～100点で採点し、その得点によって以下のように成績評価を決定 秀…90～100点、優…80～89点、良…70～79点、可…60～69点、不可…0～59点</li> <li>・本学の定める「学生指導のガイドライン」に則った担任指導により、学修意欲を把握</li> </ul>
--

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	生活文化学科	62単位	有・無	年間50単位
	子ども学科第Ⅰ部	62単位	有・無	年間50単位
	子ども学科第Ⅲ部	62単位	有・無	年間50単位
	経営情報科	62単位	有・無	年間50単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： <a href="https://www.kjc.ac.jp/student/about-status">https://www.kjc.ac.jp/student/about-status</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：HP (<a href="https://www.kjc.ac.jp/about/campus/">https://www.kjc.ac.jp/about/campus/</a>) に掲載、及び本学ホームページ資料請求フォームから大学案内を入手することができる。</p>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	生活文化 学科	460,000 円	240,000 円	393,000 円	施設設備費、教育充実費等
	子ども学 科第Ⅰ部	460,000 円	240,000 円	393,000 円	施設設備費、教育充実費等
	子ども学 科第Ⅲ部	305,000 円	240,000 円	266,000 円	施設設備費、教育充実費等
	経営情報 科	460,000 円	240,000 円	393,000 円	施設設備費、教育充実費等

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 本学では、各学科にクラスを置き、履修の方法や成績等修学に関する指導や助言を受けられるようにクラス担任制度を設け、時間割上に原則週1回のクラスアワーを配置し、クラス担任がクラス全体への指導を行う時間を確保している。 また、科目担当教員への授業科目等に関する学生の質問や相談に応じるための時間として、非常勤講師を含めた全教員がオフィスアワーを設定している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 本学キャリア支援センターでは、学生一人ひとりに対する個別指導や個別相談のほか、就職活動に関するガイダンスを開催している。1年生では、学生の進路決定のための取組や就職活動のノウハウを身につける講座を開講している。2年生では、一般職と専門職に分かれて、それぞれ希望する職種に適した内容のガイダンスを受けることができる。 また、年度末に内定した学生に向けて、入社後すぐに必要となる心構えやスキルを身につけるための講座も開催している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 学生・教職員の心身の健康保持・増進及び学内で発生した負傷、疾病等の応急処置に対応するため、医務室を整備し、1名の看護師を配属している。週1回、医師による健康相談を受けることもできる。メンタルヘルスケアやカウンセリングについては、カウンセリングルームを整備しており、臨床心理士の専任教員及び非常勤の学生相談員4人を配属し、カウンセリング(学生相談)を行っている。対象となる学生に関わる教員へのコンサルテーションや精神病レベルの症状を持つ学生には、臨床心理士の専任教員が専門機関と連携し、専門医を紹介して対処している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活文化学科 食物栄養専攻課程 教職員紹介 <a href="https://www.kjc.ac.jp/department/life-culture/major-food/major-food_introduction/">https://www.kjc.ac.jp/department/life-culture/major-food/major-food_introduction/</a></li> <li>・生活文化学科 生活介護福祉専攻課程 教職員紹介 <a href="https://www.kjc.ac.jp/department/life-culture/wellness/wellness_introduction/">https://www.kjc.ac.jp/department/life-culture/wellness/wellness_introduction/</a></li> <li>・子ども学科 第Ⅰ部 教職員紹介 <a href="https://www.kjc.ac.jp/department/child_1/child_1_introduction/">https://www.kjc.ac.jp/department/child_1/child_1_introduction/</a></li> </ul>
---

- ・子ども学科 第Ⅲ部 教職員紹介

[https://www.kjc.ac.jp/department/child-3/child\\_3\\_introduction/](https://www.kjc.ac.jp/department/child-3/child_3_introduction/)

- ・経営情報科 教職員紹介

[https://www.kjc.ac.jp/department/info-management/info-management\\_introduction/](https://www.kjc.ac.jp/department/info-management/info-management_introduction/)